

富良野市まち・ひと・しごと創生
人口ビジョン・総合戦略(素案)について

富良野市

総合戦略策定に向けたこれまでの経過

【市民参加】

H26.9.30～11.27

「市長と語ろう！地域懇談会」

市内15会場 市民385名参加

H26.12.1

まちづくり講演会「地域戦略の考え方」

講師：内閣府五十嵐参事官

市民106名参加

H27.9.1～

富良野市総合戦略有識者会議

これまで9/1、10/9、11/9の3回開催

H27.9.28～11.30

「市長と語ろう！地域懇談会」

これまで12会場 市民340名参加

【職員参加】

H26.12.9～H27.3.27

女性職員ワーキングチーム6回開催

若手職員ワーキングチーム8回開催

H27.6.2

戦略策定に向けた職員全体説明会

H27.7.10～8.20

「ひと」創生部会 3回開催

「しごと」創生部会 4回開催

H27.11.9

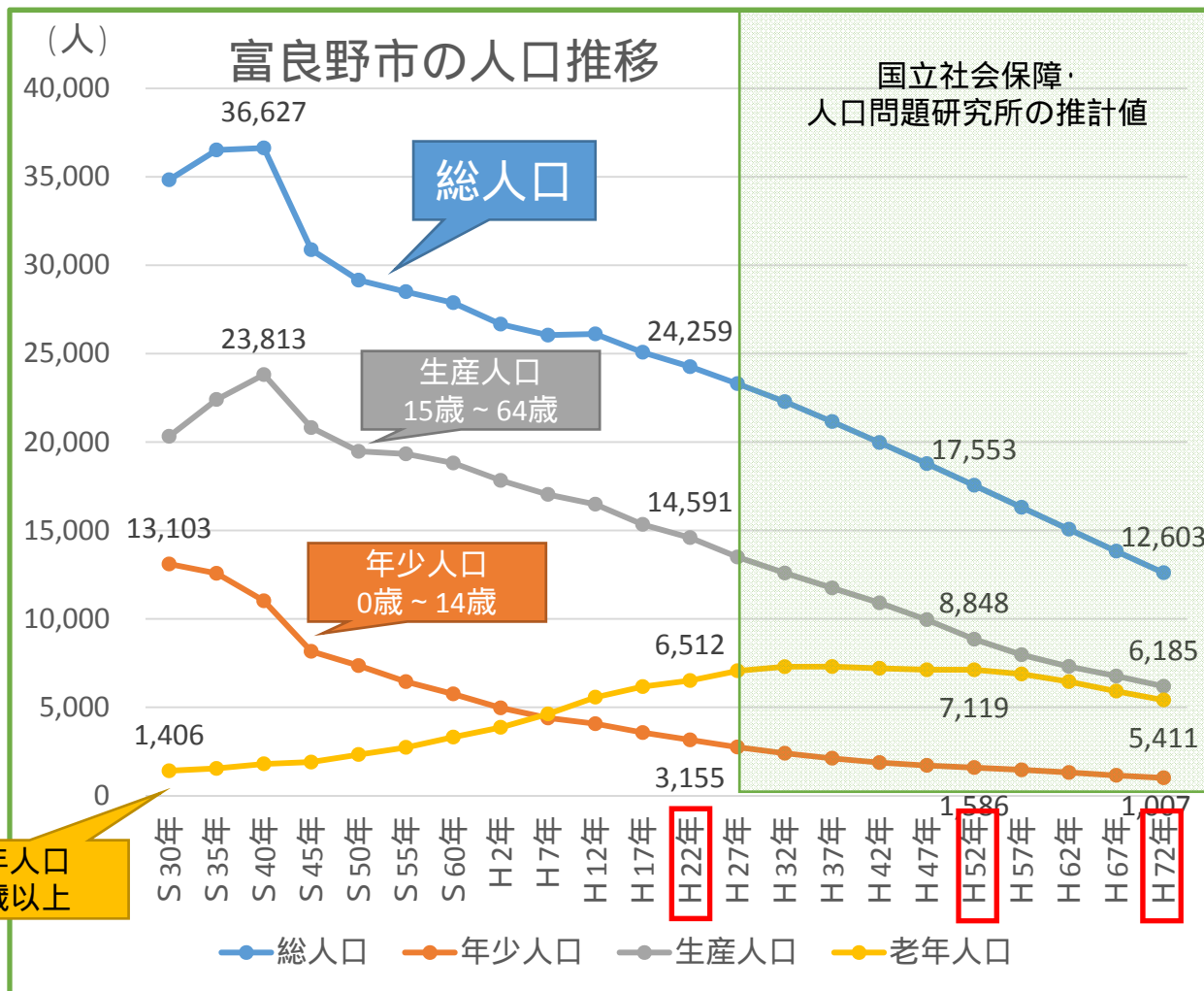
予算要求へ向けた職員全体説明会

H27.4.3～

総合戦略策定本部会議(庁議メンバー)

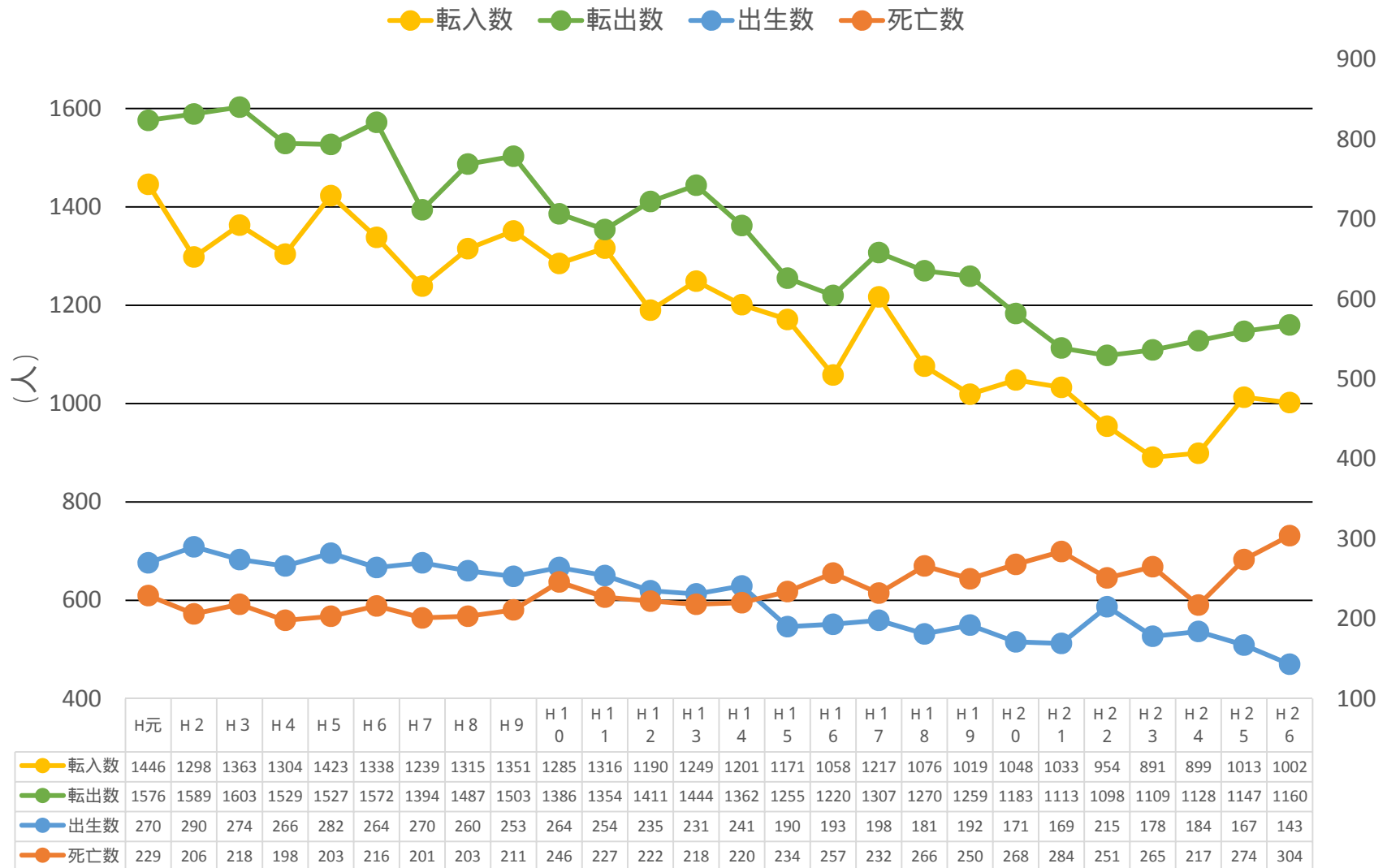
月2回のペースでこれまで11回開催

人口推移と人口推計値

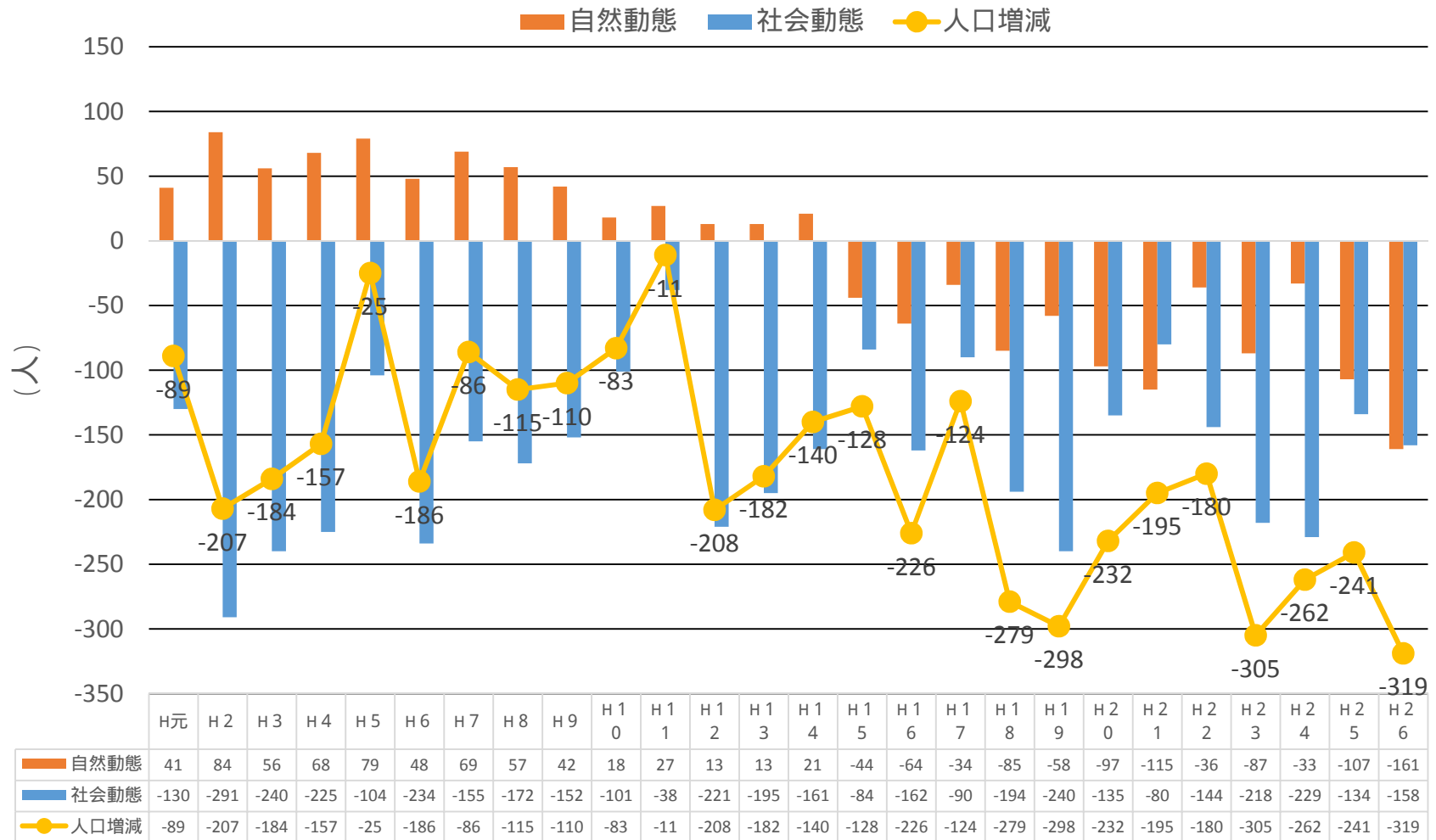


- 富良野市の総人口は、昭和40年の36,627人をピークに減少傾向にあり、平成22年時点では24,259人となっています。
- 国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成52年時点では17,553人となり、ピーク時の約半分(47.9%)、2010年時点の3/4(72.4%)となっています。
- 人口推移を年齢3区分別に見ると、生産年齢人口は、総人口と同様に昭和40年の23,813人をピークに減少傾向にあり、年少人口も総じて減少傾向にあります。一方、老年人口は一貫した増加傾向にありますが、平成37年以降は微減傾向になることが予想されています。

転入・転出・出生・死亡数の推移

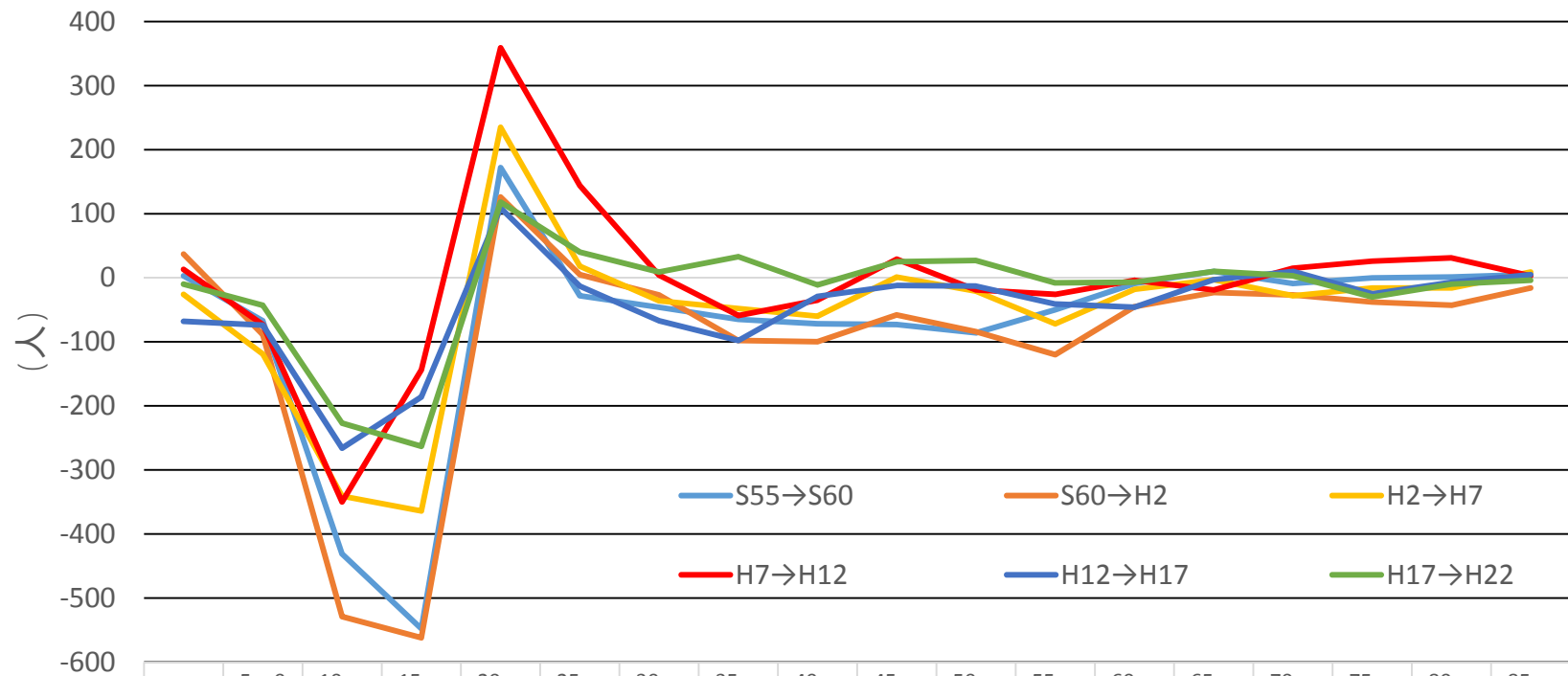


人口の自然動態と社会動態



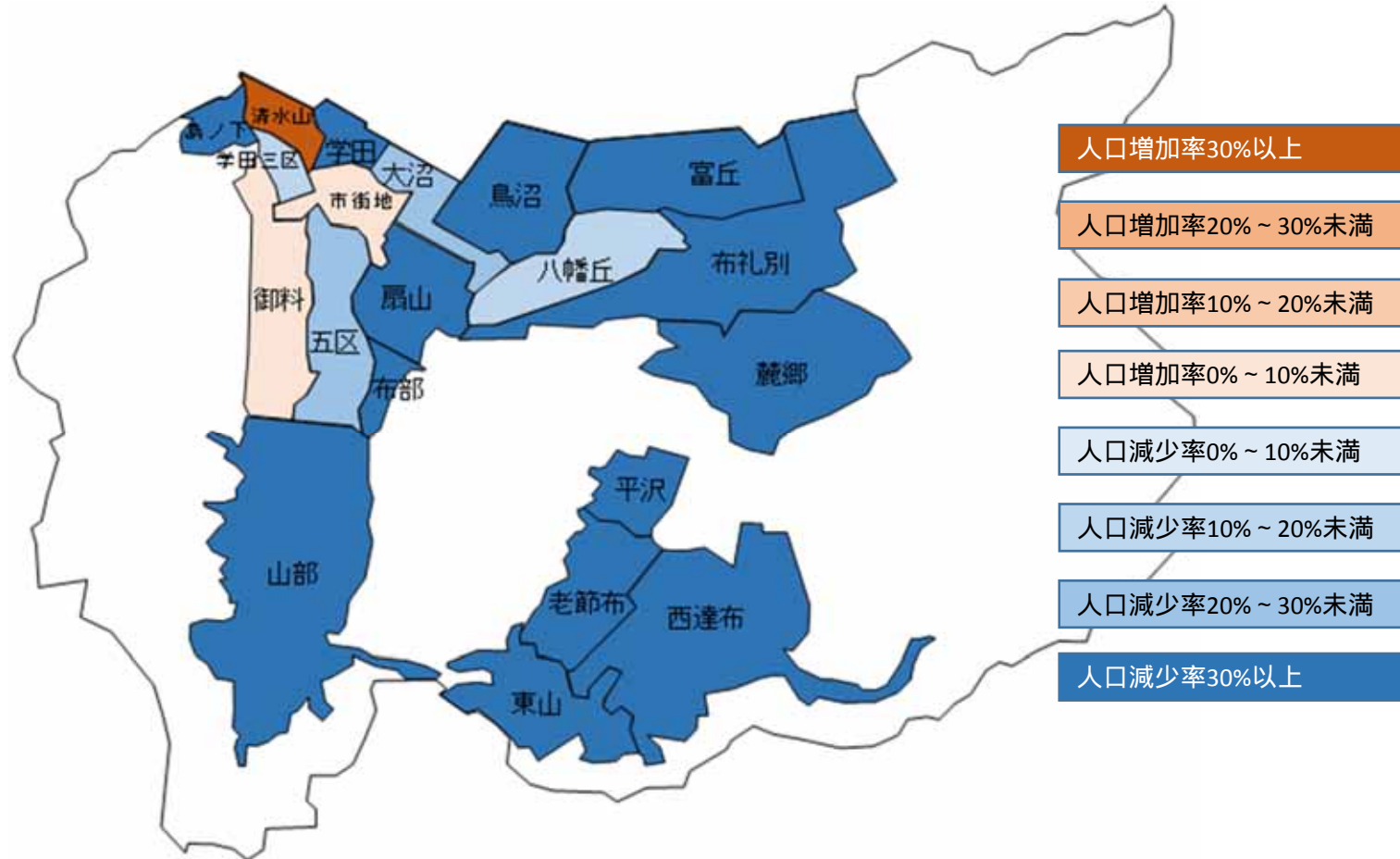
自然動態(出生数-死亡数) 社会動態(転入数-転出数) 人口増減(自然動態 + 社会動態)

5歳階級別人口移動の長期的動向



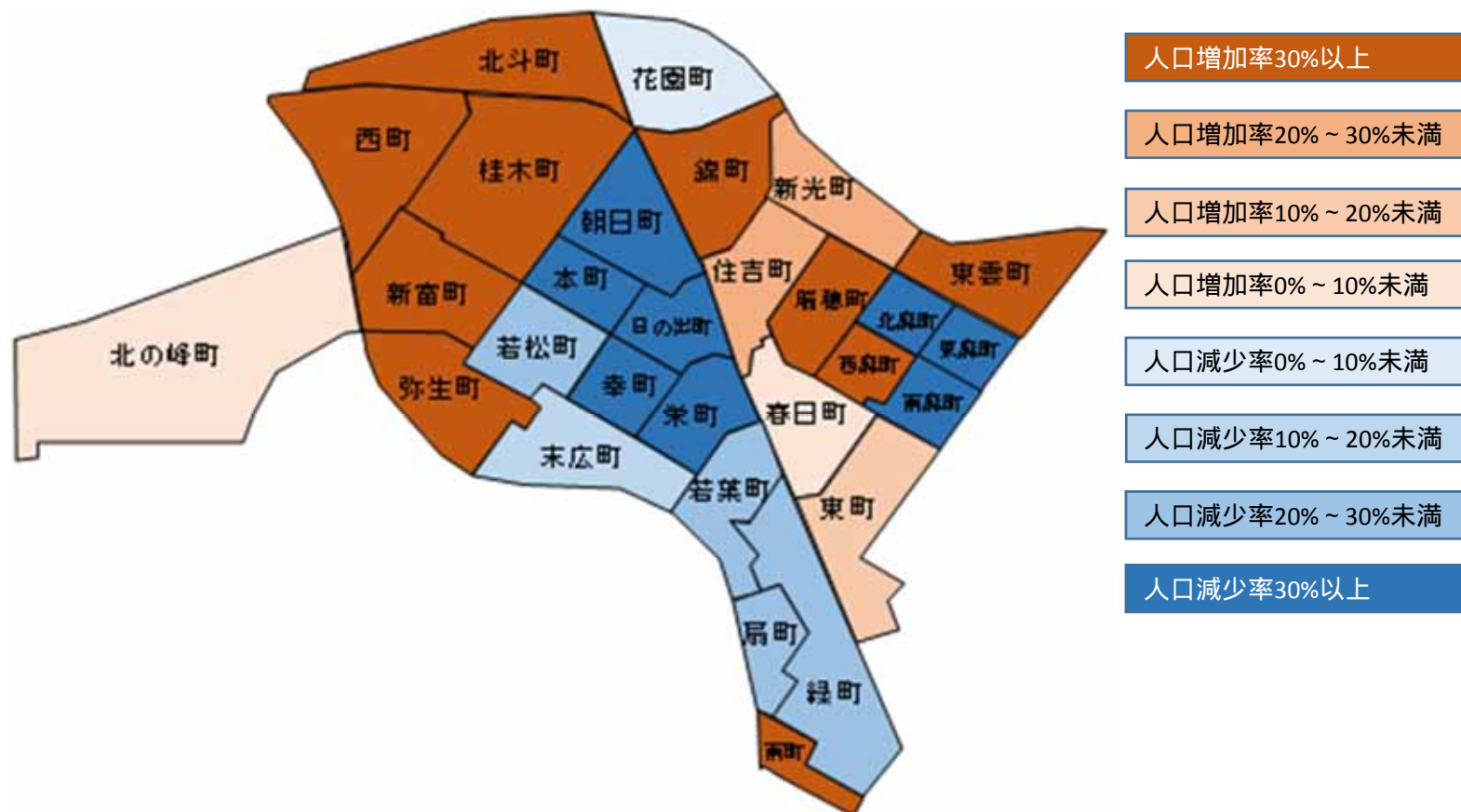
	0～4 歳→5 ～9歳	5～9 歳→10 ～14 歳	10～ 14歳 →15～ 19歳	15～ 19歳 →20～ 24歳	20～ 24歳 →25～ 29歳	25～ 29歳 →30～ 34歳	30～ 34歳 →35～ 39歳	35～ 39歳 →40～ 44歳	40～ 44歳 →45～ 49歳	45～ 49歳 →50～ 54歳	50～ 54歳 →55～ 59歳	55～ 59歳 →60～ 64歳	60～ 64歳 →65～ 69歳	65～ 69歳 →70～ 74歳	70～ 74歳 →75～ 79歳	75～ 79歳 →80～ 84歳	80～ 84歳 →85～ 89歳	85～ 89歳 ～
— S55→S60	3	-67	-431	-548	172	-28	-46	-65	-72	-73	-86	-50	-9	10	-9	0	1	5
— S60→H2	37	-89	-529	-562	126	5	-27	-98	-100	-58	-84	-120	-45	-23	-27	-38	-43	-16
— H2→H7	-26	-119	-341	-364	235	18	-36	-48	-60	1	-21	-72	-18	-3	-28	-16	-16	9
— H7→H12	13	-73	-350	-144	359	144	4	-59	-35	29	-19	-26	-4	-19	15	26	31	3
— H12→H17	-68	-74	-266	-186	109	-13	-67	-98	-29	-12	-13	-41	-46	-3	10	-25	-7	5
— H17→H22	-10	-43	-227	-263	118	40	9	33	-11	25	27	-8	-7	10	3	-30	-10	-4

昭和60年から平成22年までの人口増減率



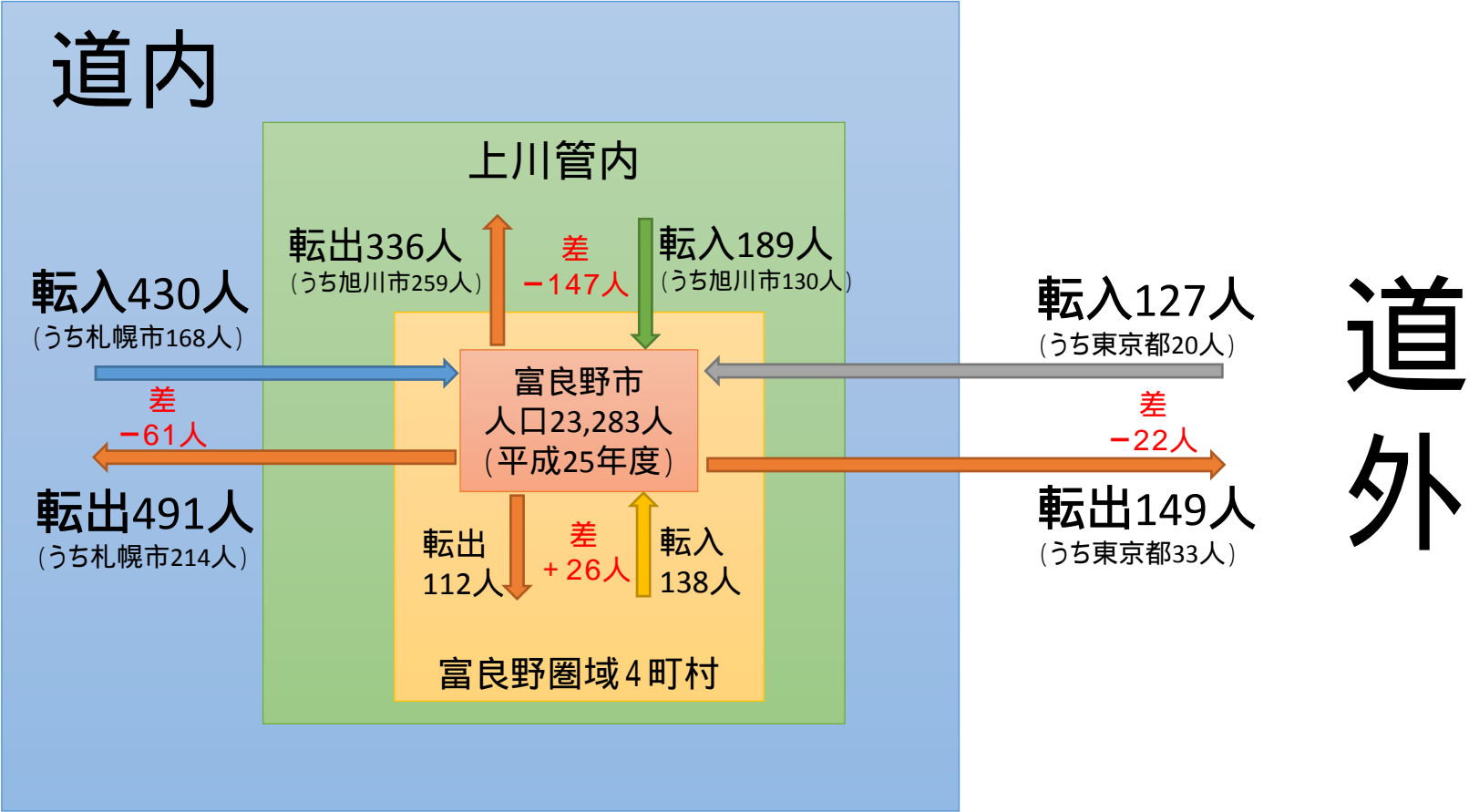
昭和60年から平成22年までの25年間の農村部の地区別人口増減率では、多くの地区で30%以上の人口が減少し、特に東山地域では、50%以上の人口が減少しています。

昭和60年から平成22年までの人口増減率

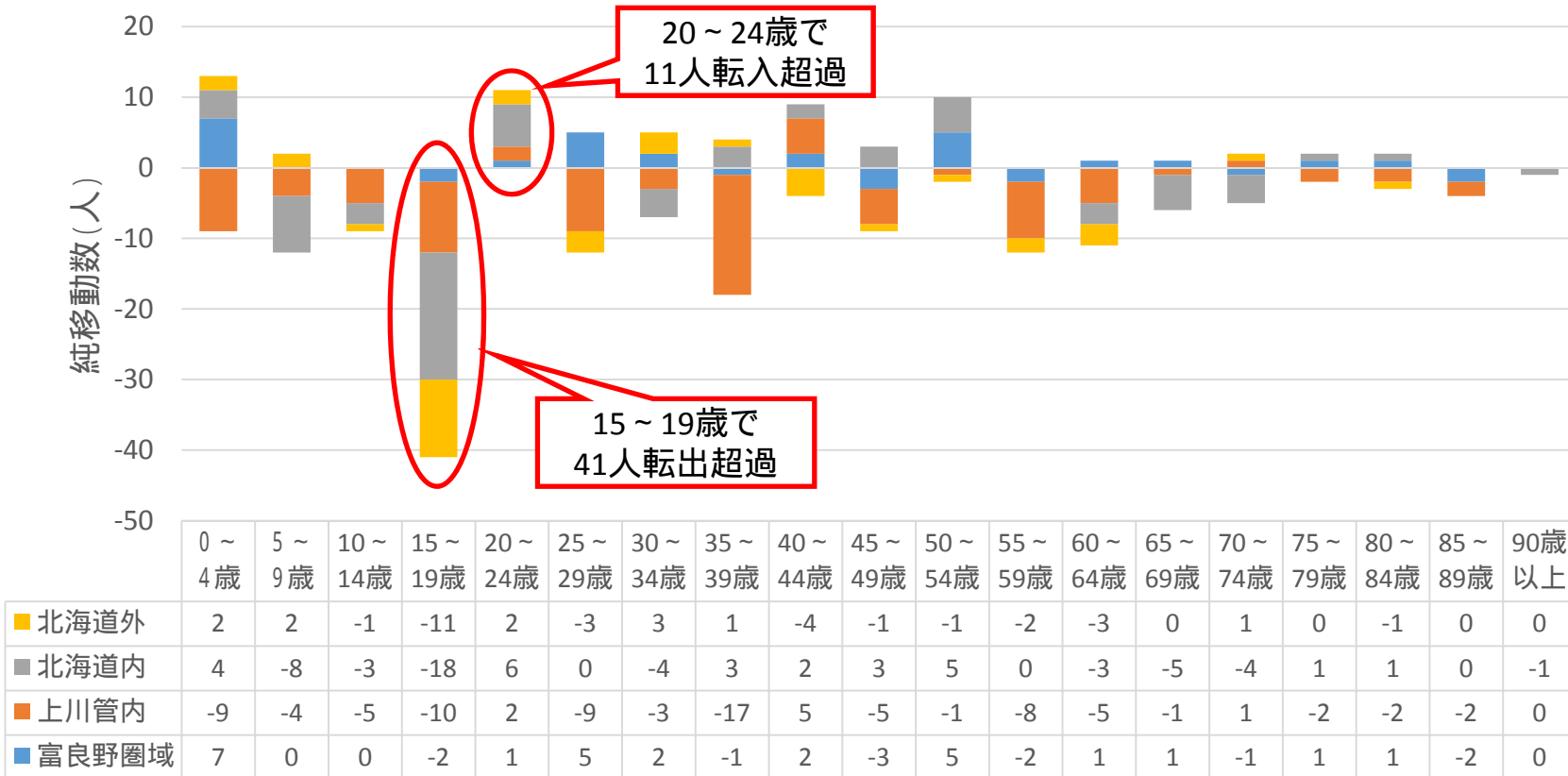


昭和60年から平成22年までの25年間の市街地の地区別人口増減率では、中心市街地や麻町地区で30%以上の人口が減少していますが、宅地開発等が行われた郊外部では、逆に30%以上の人口が増加しています。

富良野市の転入と転出の状況 (平成25年度)

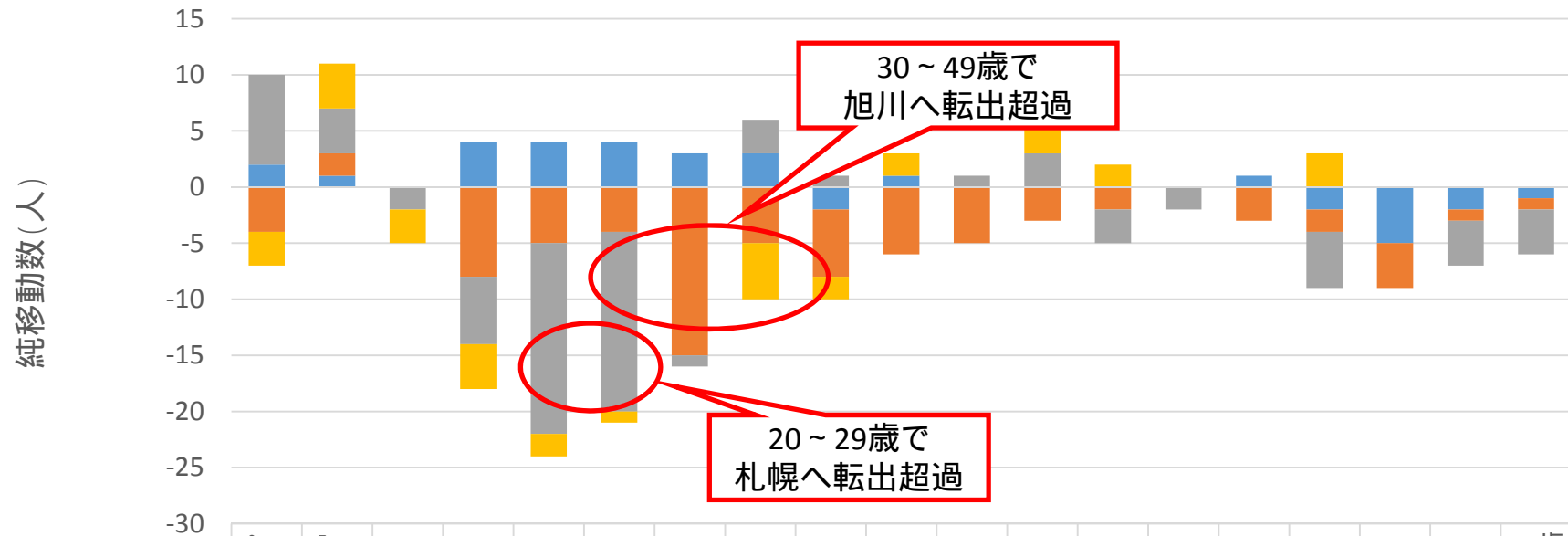


年代別男性純移動数(平成25年度転入数-転出数)



年代別**男性純移動数**では、15 ~ 19歳が41人の転出超過で最も多くなっています。しかし、20 ~ 24歳では、逆に11人転入超過となっています。

年代別女性純移動数(平成25年度転入数-転出数)



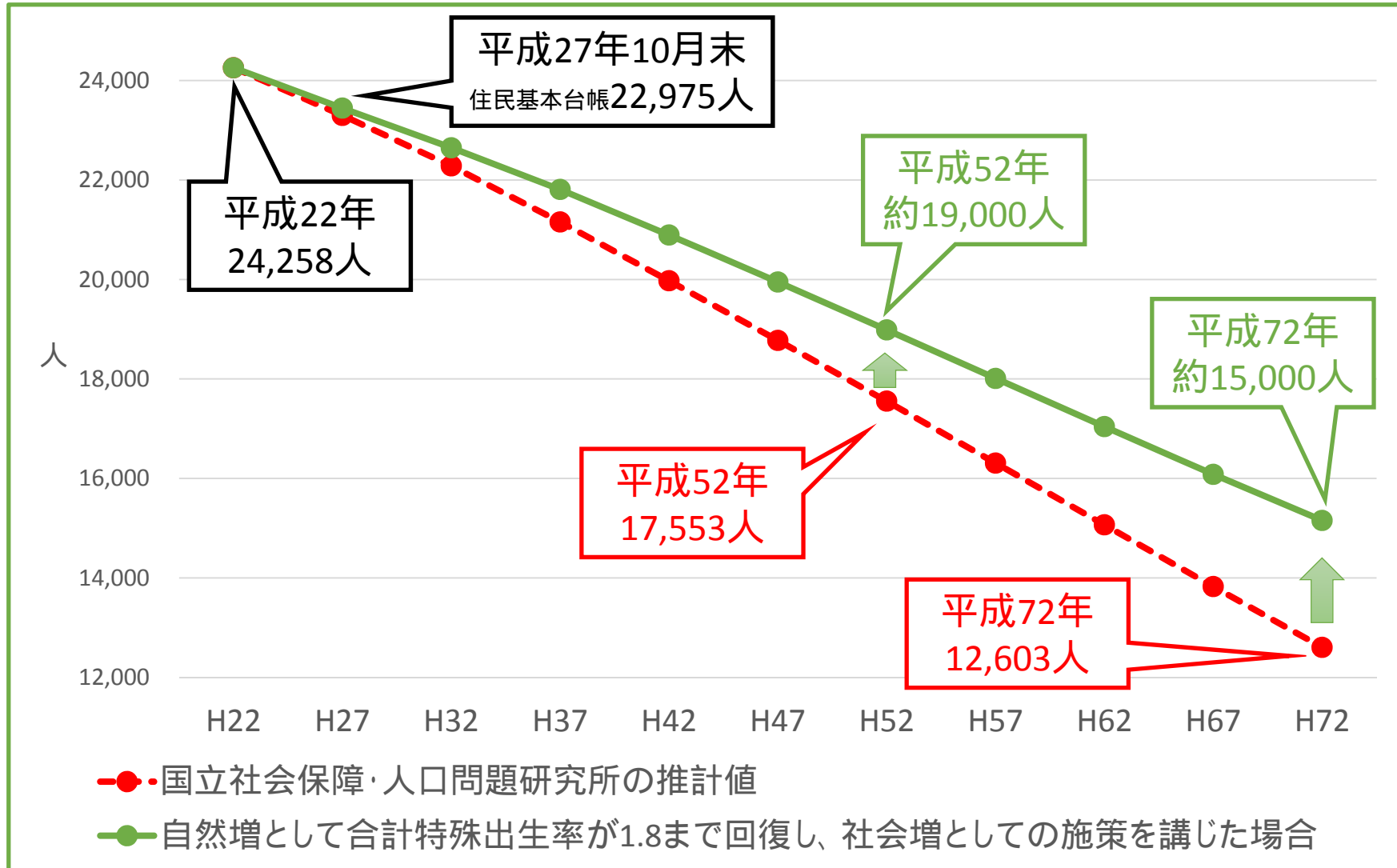
	0 ~ 4歳	5 ~ 9歳	10 ~ 14歳	15 ~ 19歳	20 ~ 24歳	25 ~ 29歳	30 ~ 34歳	35 ~ 39歳	40 ~ 44歳	45 ~ 49歳	50 ~ 54歳	55 ~ 59歳	60 ~ 64歳	65 ~ 69歳	70 ~ 74歳	75 ~ 79歳	80 ~ 84歳	85 ~ 89歳	90歳以上
■ 北海道外	-3	4	-3	-4	-2	-1	0	-5	-2	2	0	3	2	0	0	3	0	0	0
■ 北海道内	8	4	-2	-6	-17	-16	-1	3	1	0	1	3	-3	-2	0	-5	0	-4	-4
■ 上川管内	-4	2	0	-8	-5	-4	-15	-5	-6	-6	-5	-3	-2	0	-3	-2	-4	-1	-1
■ 富良野圏域	2	1	0	4	4	4	3	3	-2	1	0	0	0	0	1	-2	-5	-2	-1

年代別**女性純移動数**では、15歳～39歳まで富良野圏域4町村から転入超過となっています。しかし、20～29歳までは、札幌への転出超過、30～49歳では、旭川への転出超過となっています。

富良野市の経済構造・企業活動自治体比較(2012年)

項目	数値	道内順位	全国順位	備考
企業数	895社	30位	865位	
事業所数	1,184事業所	30位	838位	
製造品出荷額	7,738.4百万円	73位	1,251位	
付加価値額	21,380百万円	30位	860位	売上高-費用総額+給与総額+租税公課
労働生産性	3,311千円/人	59位	804位	付加価値額÷従業者数
創業比率	2.06%	23位	242位	富良野の強み
黒字企業比率	84.9%	23位	370位	
従業者数	9,564人	27位	839位	
経営者平均年齢	61.8歳	40位	135位	

富良野市の人口ビジョン(素案)



総合戦略策定の基本的な考え

1. 総合戦略策定の趣旨

本総合戦略は、国の「長期ビジョン」、
「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、及び
北海道の「北海道人口ビジョン」、「北海
道創生総合戦略」を勘案するとともに、
人口減少や少子高齢化が急速に進む
なか、富良野市が次世代に向けてさら
なる発展を遂げ、住み続けたいまち、そ
して、子どもたちに誇れるまちをめざし
て、今後5年間の基本戦略や個別戦
略、主な施策について示すものとしま
す。

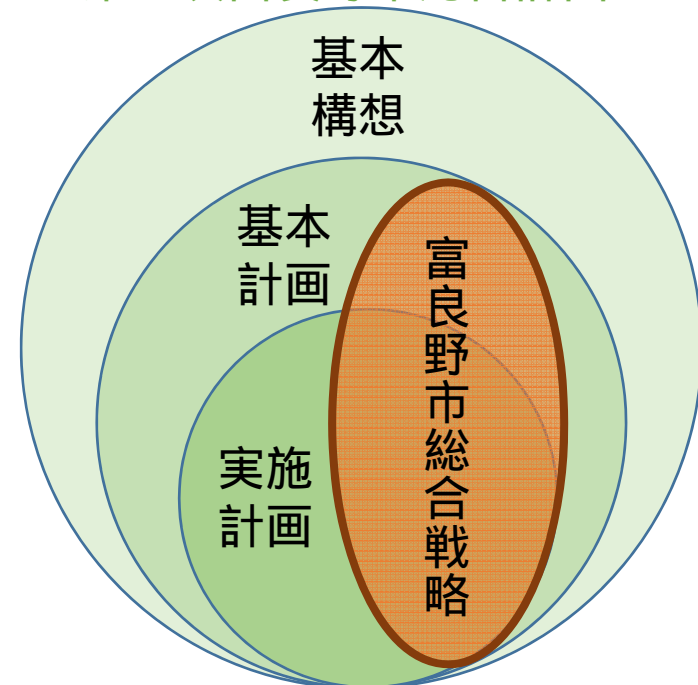
2. 総合戦略の計画期間

本総合戦略の計画期間は、平成27年
度から平成31年度までの5ヵ年としま
す。

3. 第5次総合計画との連動

本総合戦略は、現在推進中の「第5次
富良野市総合計画」(平成23年度から
平成32年度まで)の一部として連動しな
がら推進します。

第5次富良野市総合計画



地方創生に向けた3つの基本戦略

第5次富良野市総合計画の将来像（めざす姿）
安心と希望、協働と活力の大地『ふらの』

1. 「ひと」をつなぐ富良野戦略

～「ひと」と「ひと」をつなぐ。「ひと」と「地域」をつなぐ。次世代の子どもたちへつなぐ～

2. 「しごと」をつくる富良野戦略

～農業の担い手をつくる。商工業の「しごと」をつくる。観光で「しごと」をつくる～

3. 「まち」を育てる富良野戦略

～賑わいの「まち」を育てる。住みよい「まち」を育てる。環境にやさしい「まち」を育てる～

「ひと」と「しごと」の好循環とそれを支える「まち」の活性化



富良野に「しごと」をつくり、「しごと」があることで富良野に「ひと」を呼び込み、「ひと」の暮らしを支える「まち」が活性化する好循環による相乗効果を図る。

3つの基本戦略の数値目標

3つの基本戦略	5年後の数値目標
1.「ひと」をつなぐ富良野戦略	合計特殊出生数 1.44人→1.8人
2.「しごと」をつくる富良野戦略	観光経済効果に 対応する就業者数 3,400人→3,600人
3.「まち」を育てる富良野戦略	まちなか居住人口 1,093人→1,200人

3つの基本戦略と9つの個別戦略

1. 「ひと」をつなぐ富良野戦略

結婚したいと思う人々の希望をかなえる。
妊娠・出産・子育てを地域社会全体で支援する。
地域資源を活かした環境教育と郷土愛を育むキャリア教育を推進する。

2. 「しごと」をつくる富良野戦略

農業担い手育成センターを中心とした担い手の育成・確保を図る。
雇用を生み出す起業化、中小企業への支援強化を図る。
富良野版DMOの創設による観光振興を図る。

3. 「まち」を育てる富良野戦略

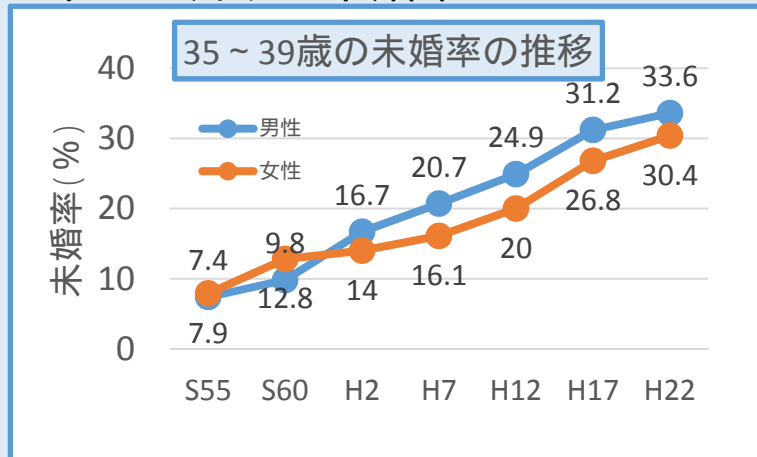
コンパクトシティに向けた中心市街地の活性化を図る。
空き家の利活用による住み替えと富良野への移住促進を図る。
循環型・低炭素による環境にやさしい社会の形成を図る。

1. 「ひと」をつなぐ富良野戦略

結婚したいと思う人々の希望をかなえる。

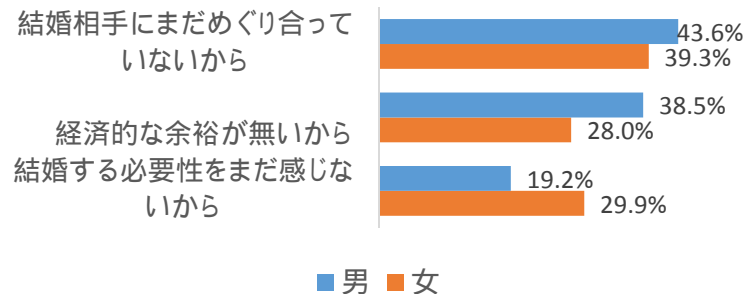
現状・課題

年々上昇する未婚率



結婚相手にまだめぐり合っていないから・・・

19歳～39歳までの独身者に、独身でいる理由に対する上位3つの回答



主な施策

- 市役所内に結婚相談窓口を開設し、結婚を希望する人を支援する。
- 地域の世話役としての「結婚サポーター」を募集し、出会いの相談や仲介等を行う。
- 民間や団体が行う婚活イベント等の開催経費を市が助成する。
- 「北海道コンカツ情報コンシェル」と連携し、婚活者向けにマナーやコミュニケーション力の向上を図る。

重要業績評価指標 (KPI)

35～39歳までの未婚率

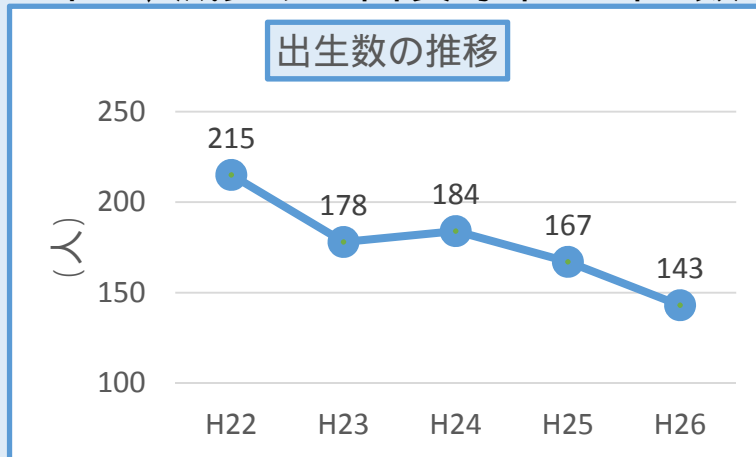
男性33.6% → 平成32年の国勢調査
女性30.4% 　　　　　では、30%以下とする

1. 「ひと」をつなぐ富良野戦略

妊娠・出産・子育てを地域社会全体で支援する。

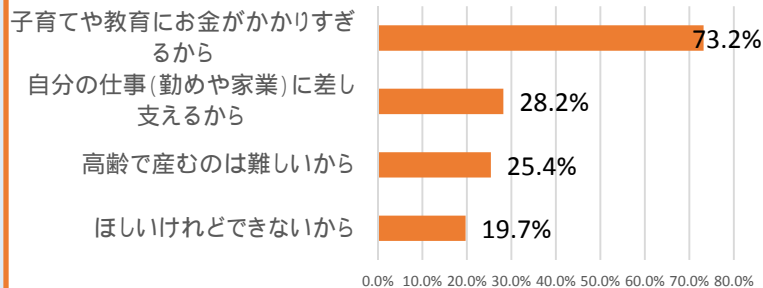
現状・課題

年々、減少する富良野市の出生数



子育てや教育にお金がかかるから

子どもを産まない、産めない理由に対する上位4つの回答



主な施策

- 乳幼児医療費は、現行2歳までの無料化を小学就学前まで引き上げる。
- 新生児の紙おむつ経費を助成し、衛生用品ごみ袋を配布する。
- 第3子以降の出産祝い金、小学校就学助成金を支給する。
- 市内の事業所が授乳やおむつ交換等の設備を整備した場合、整備費用の一部を助成する。
- 子育て世帯を支援するファミリー・サポート・センター事業を推進する。
- (仮)地域社会で子育て家庭を支える地域コミュニティ活動の創出に向けて検討する。
- (仮)不妊治療費の一部助成に向けて検討する。

重要業績評価指標 (KPI)

年間出生数

143人(H26) → 180人(H31)

ファミリー・サポート・センター会員数

110人(H27.11) → 190人(H31)

1. 「ひと」をつなぐ富良野戦略

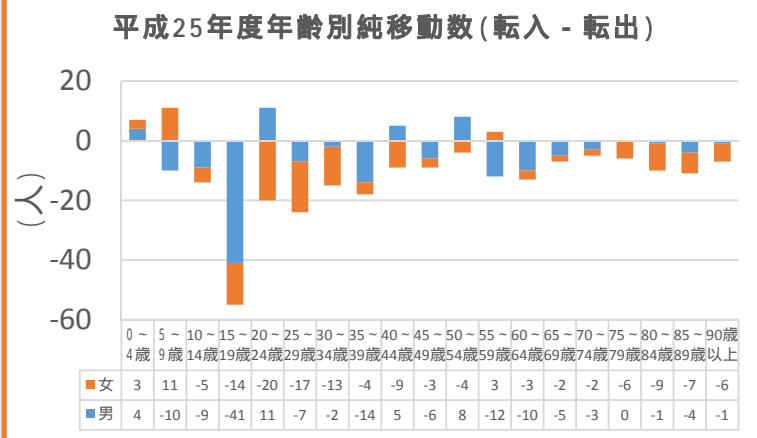
地域資源を活用した環境教育と郷土愛を育むキャリア教育を推進する。

現状・課題

恵まれた森林資源があまり市民に理解されていない



15～19歳までの転出超過(55人)



主な施策

- 恵まれた森林資源を活用し、市内小中学生を対象に森林環境教育を推進する。
- 子どもたちに「演劇のまち富良野」を体感し、演劇的手法を活用したコミュニケーション能力の向上を図る。
- 富良野を愛し、将来、「ふるさと富良野」に心が向く小中高一貫キャリア教育を推進する。
- 富良野市育英基金奨学金償還免除による地元Uターン就職を推進する。

重要業績評価指標 (KPI)

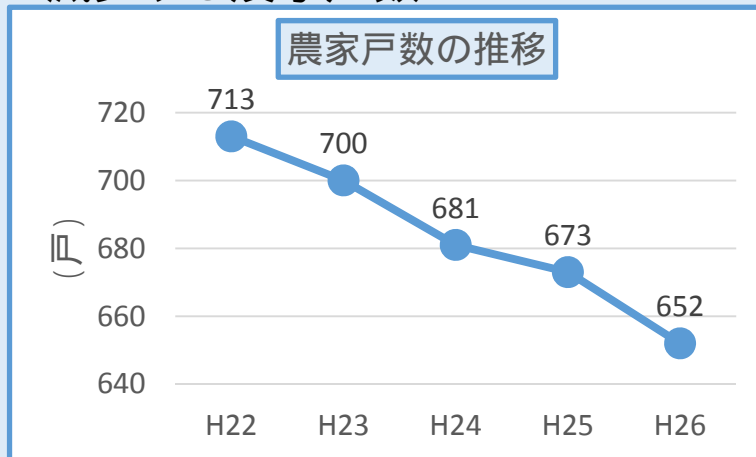
森林環境教育学習プログラム参加校
15校/年(H31)
市内就業者に対する償還免除者数
5件(H31)

2. 「しごと」をつくる富良野戦略

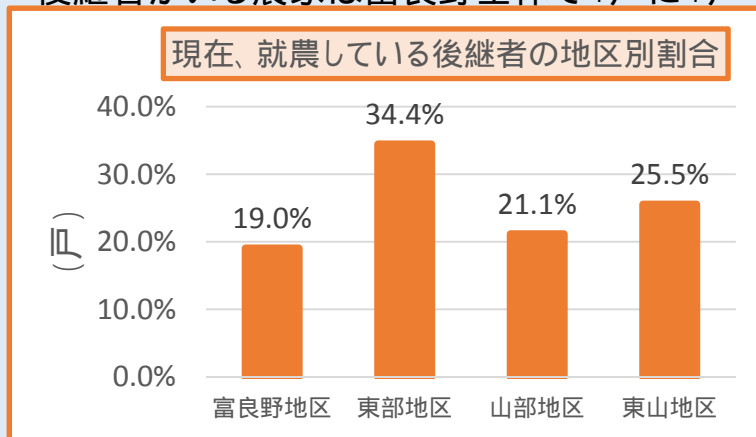
農業担い手育成センターを中心とした担い手の育成・確保を図る。

現状・課題

減少する農家戸数



後継者がいる農家は富良野全体で4戸に1戸



【H23富良野市担い手実態調査報告書より】

主な施策

- 農業担い手育成センターに、「新規参入コース」「雇用就農コース」「体験実習コース」を設定し、担い手の育成・確保を図る。
- 市内の農業後継者等が、地元で農業に従事しながら緑峰高校農業特別専攻科に通うため、学費の一部を助成する。
- 農業研修指導者に対し、指導に要する経費の一部を助成する。

重要業績評価指標（KPI）

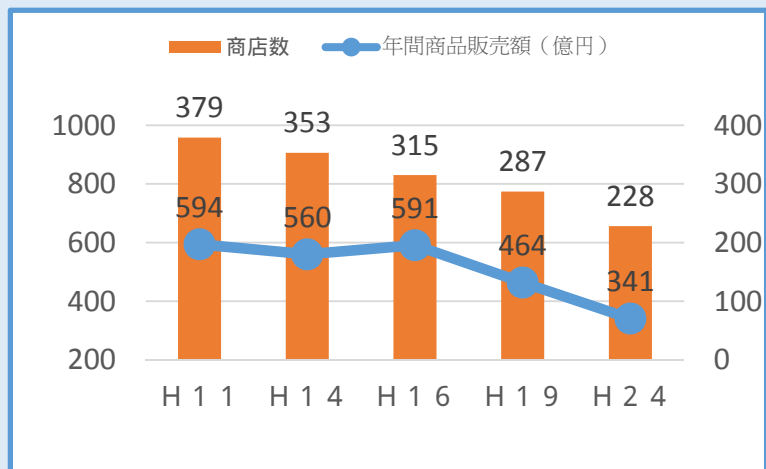
新規就農者数：5年間で40人
新規参入者数：5年間で8人
雇用就農者数：5年間で10人

2. 「しごと」をつくる富良野戦略

雇用を生み出す起業化、中小企業への支援強化を図る。

現状・課題

減少する商店数と年間商品販売額



専門職、資格職の人材不足

H25有効求人倍率(ハローワーク)

建築・土木・測量技術者	4.04
看護師・保健師・助産師	2.58
医療技術者	3.11
介護職	1.82
一般事務職	0.21

主な施策

- 新規出店・創業、中小企業の活性化に向けて、市の制度を拡充し支援する。
- 域内の経済循環を図るため、プレミアム商品券を継続実施する。
- 若い人をターゲットにした就職情報サイトを立ち上げ、雇用の促進を図る。
- 企業の人材不足を解消するため、資格技術取得に要する経費を支援する。
- ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業に対し支援する。

重要業績評価指標 (KPI)

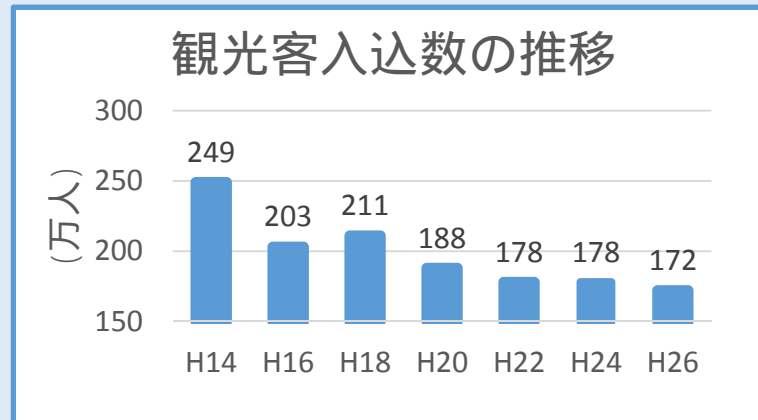
新規出店件数: 5年間で25件
就職サイトに掲載する企業数: 50社
就職サイトの閲覧件数: 2,000件 / 月

2. 「しごと」をつくる富良野戦略

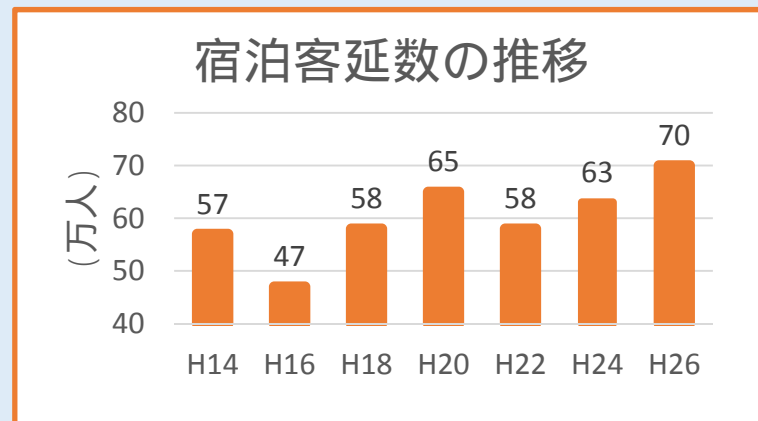
富良野版DMOの創設による観光振興を図る。

現状・課題

観光客入込数の減少



宿泊客延数



主な施策

- 富良野の農業・観光・環境を融合させ、地域の観光マーケティングやマネジメントを担う「富良野版DMO」を立ち上げ、新たな観光地域を創出する。
- 「(仮称)ブランド観光圏」認定に向け観光地サインやサイクリング等の環境整備を図る。
- 多種多様な観光資源を、季節偏差のない通年型観光や体験等による滞在型観光の強化を図る。
- 富良野らしいイベントの開催による市民と観光客との交流を図る。

重要業績評価指標 (KPI)

宿泊客延数

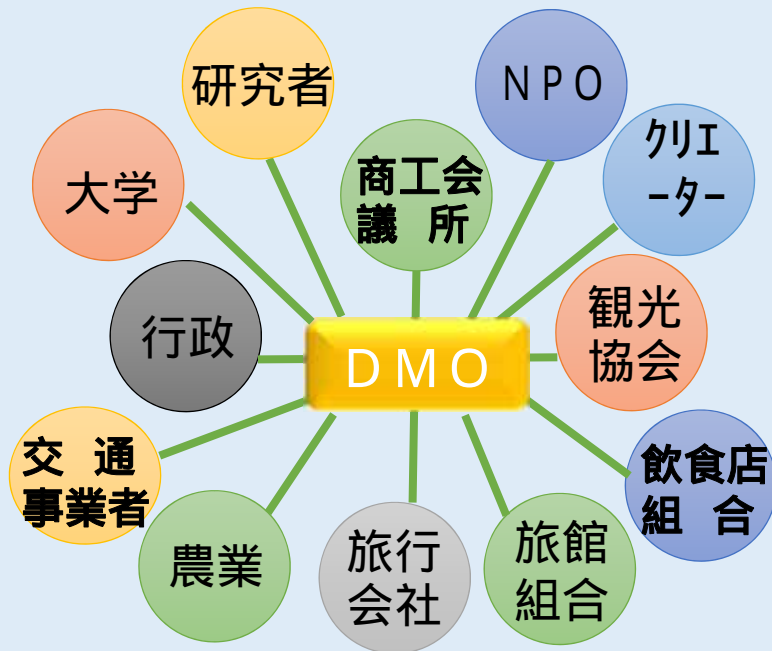
70万人 (H26) → 75万人 (H31)

宿泊客消費単価

2.9万円 (H25) → 3万円 (H31)

【参考】新型交付金の対象となり得る日本版DMOの事業例

DMOを核とした観光地域づくりプラットフォーム



自治体の壁を超える！業種の壁を超える！官民の壁を超える！

DMO = Destination Management/Marketing Organization

「日本版DMO」

様々な地域資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり、WEB、SNS等を活用した情報発信・プロモーション、ビックデータ等を活用した効果的なマーケティング、戦略策定時について、地域が主体となって行う観光地域づくりの推進主体

明確な事業目的

地域の「稼ぐ力」を引き出す
広域的な観光ルートの形成
地域ブランドの構築
新たな地域産品の創出

先駆的な事業手法

- 「観光産業」を核とした官民協働。
- 広域的な観光地域づくりや広域的な課題解決のための地域間連携
- 地域経営の視点に立った観光地域づくりや地域ブランドづくりの中心となる新たな事業推進主体の形成

重要業績評価指標（KPI）

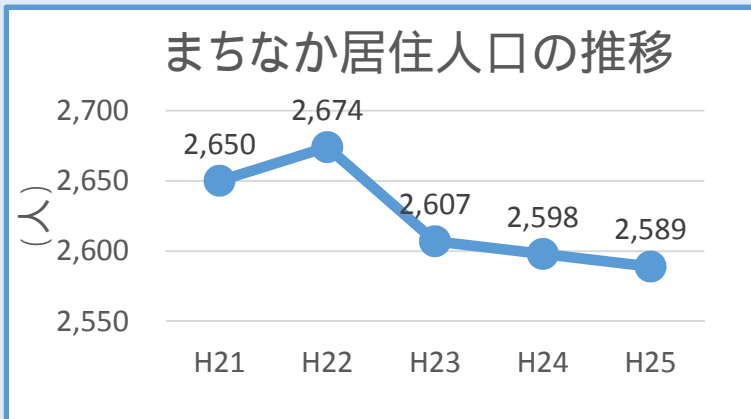
現 状：訪日外国人観光消費額300億円
5年後：訪日外国人観光消費額600億円

3. 「まち」を育てる富良野戦略

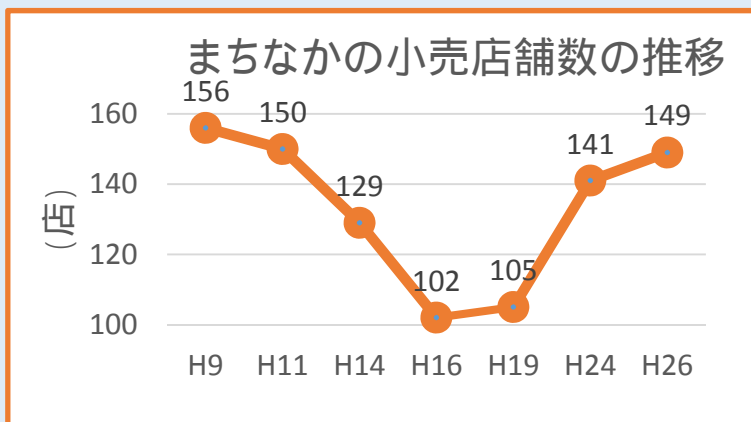
コンパクトシティに向けた中心市街地の活性化を図る。

現状・課題

まちなか居住人口の減少



まちなか小売店舗の推移



主な施策

- 中心市街地の居住環境の充実により、まちなか居住を推進する。
- 新規出店を支援し、商業集積を図る。
- 滞留拠点施設整備により、まちなか回遊を促進する。
- まちなかに、(仮称)ビジターセンターを設置し、広域観光の情報発信と受入れ体制の充実を図る。

重要業績評価指標 (KPI)

まち中の歩行者通行量

2,690人/日(H26) → 3,700人/日(H31)

小売り店舗数

149戸(H26) → 162戸(H31)

3. 「まち」を育てる富良野戦略

空き家の利活用による住み替えと富良野への移住促進を図る。

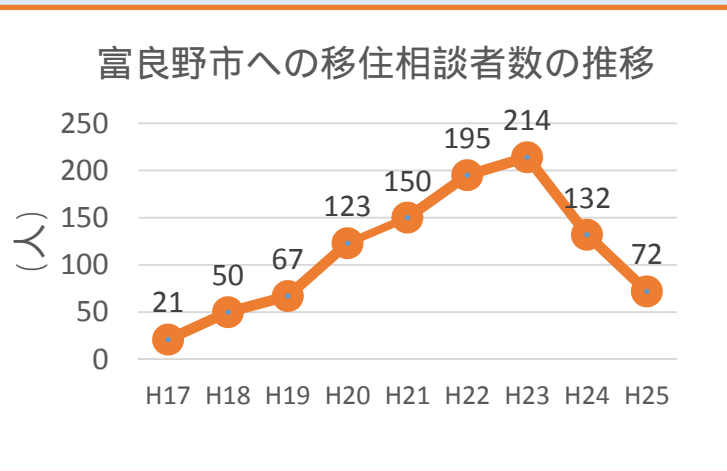
現状・課題

富良野市の空き家は1,290戸

空き屋 総数 1,290 戸	一戸建	長屋建・共同 住宅・その他
	710戸	570戸
	腐朽・破損あり	腐朽・破損なし
	360戸	930戸

【平成25年住宅・土地統計調査より】

富良野市への移住相談者



主な施策

- 空き家の実態を把握し、特定空き家を防止する。
- 利活用可能な空き家は、「住まいの情報バンク」に登録し、住み替え希望者や移住希望者への情報提供を図る。
- 住宅リフォーム促進事業の制度を拡充し、移住希望者の中古住宅購入支援や3世代同居を促進する。
- 市の移住相談ワンストップ窓口を強化し、「しごと」「住まい」「暮らし」の情報を一元的に発信することで、移住・定住の促進を図る。

重要業績評価指標（KPI）

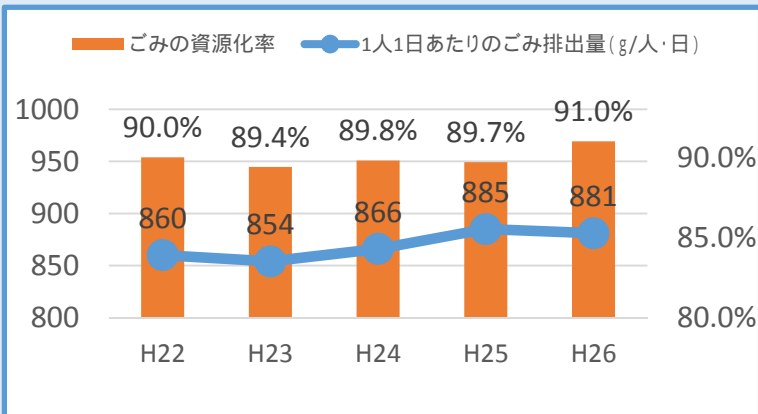
中古住宅購入者の
住宅リフォーム補助実績：5年間で10戸
移住相談件数 年間100件以上

3. 「まち」を育てる富良野戦略

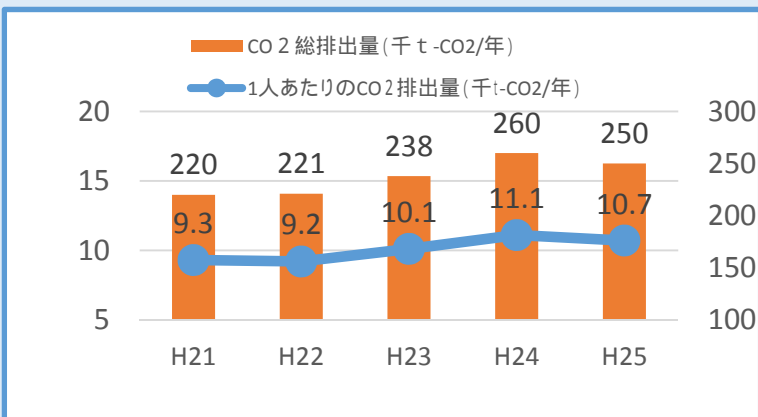
循環型・低炭素による環境にやさしい社会の形成を図る。

現状・課題

1人当たりのごみ排出量とごみの資源化率



CO₂の排出量の抑制



主な施策

- ごみの減量や資源の節約・リサイクルにより、質の高い循環型社会の形成を図る。
- 化石燃料の代替エネルギーとして木質バイオマスや太陽光発電の利用を促進する。
- 衛生用品の固形燃料化や小水力発電等、有限な資源・エネルギーの有効利用を進める。

重要業績評価指標 (KPI)

ごみの資源化率

91.0% (H26) → 90%以上をめざす

1人1日あたりのごみ排出量

881g/人・日 (H26) → 761g/人・日 (H31)

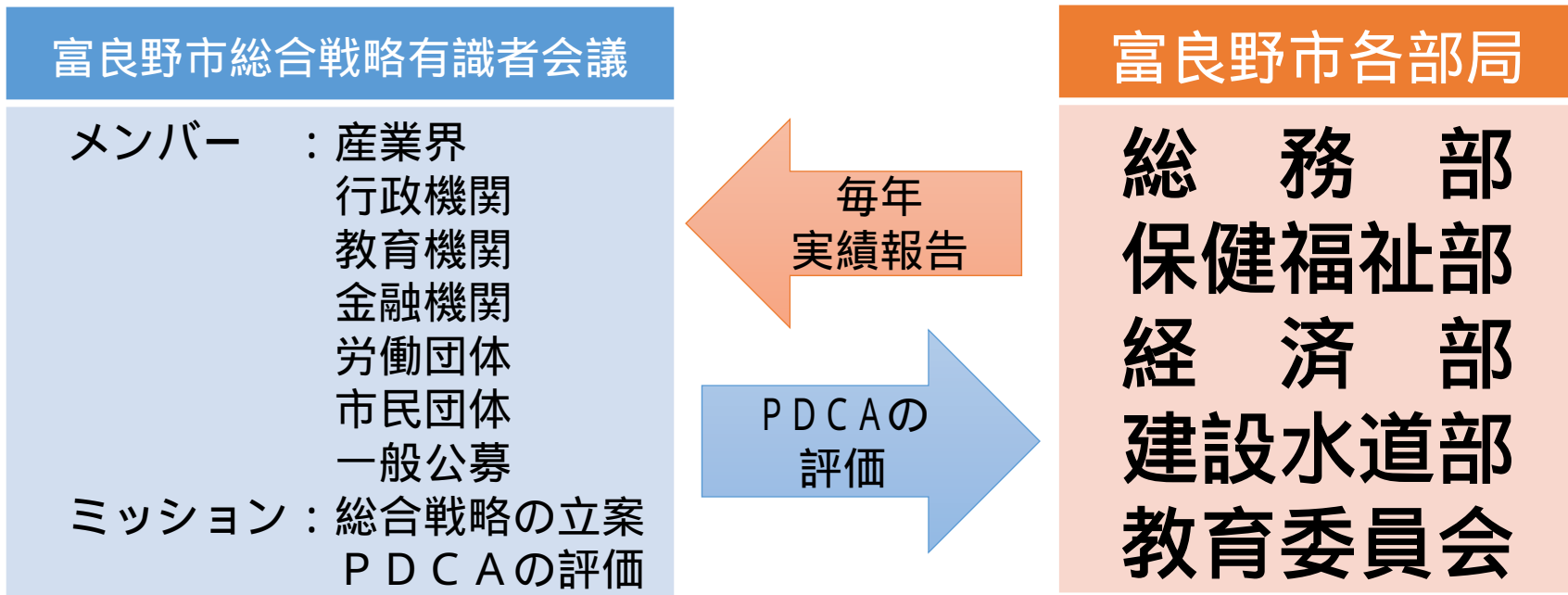
1人あたりのCO₂排出量

10.7千t-CO₂/年 (H25) → 7.2千t-CO₂/年 (H31)

総合戦略効果の検証

本総合戦略の推進にあたっては、計画(Plan)、実施(Do)、評価(Check)、改善(Action)のPDCAサイクルを構築し、毎年、重要業績評価指標(KPI)に対する効果を検証します。

なお、効果の検証は、第三者による客観性を重視するため、富良野市総合戦略有識者会議において検証を行います。



富良野市総合戦略有識者会議は、PDCAの評価により施策の効果が期待できない場合、施策の見直しや変更について協議する。

総合戦略策定までのスケジュール

年月	主な内容
平成27年11月	<ul style="list-style-type: none">● 第3回有識者会議において、総合戦略(素案)の協議● 市内7会場で「市長と語ろう!地域懇談会」を開催
12月	<ul style="list-style-type: none">● パブリックコメント手続により総合戦略(素案)意見公募● 12月17日「人口減少社会と地方創生」まちづくり講演会の開催(講師:東京大学牧野教授)
平成28年2月	<ul style="list-style-type: none">● 第4回有識者会議において、パブリックコメント手続の意見、及び平成28年度当初予算編成を踏まえた総合戦略(原案)の協議